

A photograph of a man's muscular torso and neck, shown in profile. The lighting is dramatic, highlighting the contours of his muscles. The image has a slightly grainy, artistic quality. Vertical Japanese text is overlaid on the image.

祭りに狂い乱れる男たち

試し読み

昔から祭りずきだった俺は、社会人になってから、全国を回って参加をした。

神輿の担ぎ手をはじめ、どんなハードで難しい役を任されても大歓迎。

が、今回だけは、乗り気になれず。
なんとって、禪の着用が求められたから。

裸にはっぴを羽織ることはあれど、今の時代、禪とは、なかなかのもの。

現代っ子の俺には抵抗感が強かったとはいえ、歴史ある伝統的な祭りに参加できるのは光栄なこと。

「むしろ、いい機会だ！」と腹をくくり、禪をつけて臨んだところ。

この祭りの内容は、神社に祀る女の神をよろこばせるため、禪の男たちが一心不乱に踊るというもの。

十人で組となり、二組ずつが、どちらのほうが華々しく踊れるかを競う。

成人シヨタアイドルが不倫したってよ

俺は芸能人のスキヤンダル専門の記者で、通称「やりチンのハイエナ」。
なんて呼ばれるのは、やり方があくどいから。

その名のとおり、俺は自分の体をつかい、スクープを。
相手は男女問わず。

今の標的は、国民的アイドルグループの絶対的エース、聖也。

二十代半ばにして、男子中学生と見まがう童顔で、言動もふるまいも、
あどけなく愛らしい。

コンサートで「お姉ちゃんたち」とウインクすれば、卒倒するファン

もいるとか。

そんな「成人シヨタ」と崇められる聖也にして、不倫疑惑が浮上。俺の飼犬の一人が、ホテルから女とでてきたのを目撃したという。

女の正体は、グループの元マネージャー。

シヨタキャラのアイドルが、子持ちの既婚者、しかも十才年上の元マネージャーと不倫なんて超おいしいネタ。

ハーレムのはずが、女装マツチヨに狙われています！

プレイヤー以外、異性しかいない世界で、ハーレム高校生活を送る。今、はまっている成人指定のエロゲームにまさか転生しようとは。

しかも、全員の好感度マックスのパラダイな状況で、そりゃあ、手あたりしだいエッチしまくり。

気のむくまま赴くままにエッチする日々を送っていたのが、ある日、異変が。

朝から校舎裏でエッチをして、すこし疲れ、欠伸をしたところ、女教師が「皆さんに転校生を紹介します」と。

美少女や美女とエッチしまくる生活が、ややマンネリ化していたから。
「お、変わり種が投入か？」と注目。

果たして、おずおずと教室にはいつてきたのは、はちきれそうなセーラー服を着た、ソフトモヒカンの男。
ミニスカートををはいているとはいえ、覗く太ももは筋骨隆々で、格闘家のよう。

淫らな俺の犬の躰け方

「おい！ポチ！やめろって！」

万歳して手をひとまとめに縄で縛られ、ベッドに仰向けに寝て見あげるのは、逆光の男。

やや人とシルエットがちがひ、頭には三角耳、太もものよこから、ふさふさの尻尾が。

男が、つくりものの獣耳と尻尾をつけているように見えるが、その動きは滑らか。

そう、男こと、ポチは犬の半獣だ。

三か月前、マンションの共同玄関で倒れていたのを発見。はじめはコスプレかと思ったとはいえ、耳の感触が本物っぽく、引っぱっても外れなかったに、狼人間のようなものと判断。

そのうえで、発熱して辛そうだったから、どうにか部屋に運び、看病。「もし意識ももどらなかつたら、病院獣医どっちに行けば」と悩んでいたところ、目を開けたもので。

酔っぱらって「パパ」と呼ぶおまえを

頂いてもいいですか

俺が新米教師として赴任した高校。

二年の国語を担当していたのだが、受け持ちのクラスにいた生徒、住谷に初恋をした。

それまで、なんとなく恋愛に疎かったのが、一目ぼれしたと同時に恋愛対象は同性だと自覚。

にしても、相手が生徒とは、初恋にして、なんと難度が高いことか。

住谷は母子家庭で苦労おおく育ったらしいが、快活で人懐こかった。

初恋にとまどう俺のことも「年が近くて兄さんみたいだ」と慕って
く
れて。

そりゃあ好意を抱く相手と親しくなれて、うれしかったものを、心境
は複雑。

だって、夜に自慰をして、翌日、顔を合わせるとなれば、気まずいだ
ろう。

「兄ちゃんのエツチ」と怒っていたのが今や懐かしい

朝、目覚めて、洗面所に。

引き戸を開けたところで、従弟が顔を洗っていたに首をかしげるも「ああ、そうか、泊まったんだ」と思いだす。

よく従弟は俺の家に泊まりにくる。

家が近いのと従弟の親が共働きで不在がちだから。

従弟が赤ん坊のころからの習慣なので、俺たちは兄弟のように仲がいい。

従弟は小学六年生、俺は高校二年生。

年が離れていることもあり、まだまだ幼い従弟が、俺にしたらかワイくてもかたない。

丹念に顔を洗う従弟は俺に気づいていなく、背をかがめたまま。俺がまだ寝間着なのに対し、すでに制服を着て、半ズボンからぴちぴちの太ももを覗かせて。

そつと手を伸ばし、太ももを撫でれば「ひゃあ！」とまき散らされる水。

煙草に酔つて哀れな俺たちはエツチに耽る

学校の非常階段で火を点けた煙草を啜えようとしたら、上のほうから荒い息づかいが聞こえた。

眉をしかめ、煙草を踏みつけてから、階段を上っていく。

踊り場で曲がったところで目にはいったのは、キスをして体をまさぐりあう二人。

盛りのついたカップルらしいが、ここは男子校。

二人とも学ラン。

さて、気づかれないうちに去るか、咳払いをして咎めるか。

と考える間もなく、まえのめりのやつが目をむけて、相手から体をはなした。

相手は物足りないのか、すがりつこうとしたが、にわかには振りむき、俺を凝視。

「ひ」と跳びすさって、上階へ逃亡。

一方でもう一人は俺を見下ろしたまま、口を腕でぬぐい不敵な笑み。

汗を舐めて彼は発情する

「俺、エッチンとき、相手の汗を舐めると興奮すんだよね」

教室で本を読んでいたら、その発言が耳にはいり、ぎくりとした。

内容自体、かなり刺激的だが、気になったのは、俺がひどい汗っかきだから。

夏は見るも無惨だし、冬も全身汗だくになってやまない。
おかげで、小中とイジメの対象に。

そのにがい経験を踏まえ、努力と工夫をし、今では汗っかきとばれな

いで高校生活を送っている。

ただ、長時間人といると、ばれてしまうから、友人や彼女をつくれず、青春を謳歌できていないが。

今だって油断はできず、汗に関する発言を聞いただけで、体が濡れてじっとり。

慌てて本を閉じて立ちあがると、着替えのはいった靴を持ち、そそくさと退室。

呪われたこけしに掘られちやう！

高校の同級生で友人の下村は、下ネタが大好物。

家族旅行から帰ってきてきたなら、お土産のこけしを押しつけ、早速、噛ましたもので。

「男の、しかもイケメンのこけしって珍しいだろ？
しかも、形状がちんこみたいでさあ！」

俺の家にきて第一声がこれだ。

そのあとも、さんざん、こけしを下ネタにして笑いこけ、帰るときも

「あ、気をつけるよ！」とウィンク。

「まちがって、こけしを口で啜えんじやないぞ！」

怯えるおまえの骨までしやぶりたい

就職した会社で親しくなった竹中は、相当なこわがり。

竹中の昔からの友人曰く「家でホラー鑑賞会したときは失神した」ほどらしい。

「まあ、お年ごろだったし、強がつて参加したんだらうよ。でも、ぜんぜん隠せてなくて、それが可笑しくて可笑しくて、たまんなかったんだから」

そう聞いては、好奇心が疼くというもの。

早速、昼休みに「週末、俺んちで酒飲みながら夜通しゲームしたり映画見ない？」とお誘い。

「へえ！おまえんち行くの初めてだな！」と目を輝かせる竹中は、すこしも疑ってなさそう。

